

ノータッチデプロイメントに 栄光あれ

5倍以上の生産性を上げられるか?

尾島 良司

OJIMA, Ryoji

日本ユニシス株式会社
.NETビジネスディベロップメント

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
Visual Studio .NET 2003

Level



Samples

はじめに

「認めたくないものだな。自分自身の、若さゆえの過ちというものを」^[注1]

ちょっと無理があったかも……。

何回も書いてきましたが、万能の道具などは存在しないのです。ノータッチデプロイメントもそう。“できること”だけで、若さに任せて採用してはいけません。“できないこと”もきちんと考えないとならないのです。

さて、ノータッチデプロイメントにはいくつかの機能的な制約があります。ノータッチデプロイメントを適用してもメリットが得られないケースもあり

注1) シャア・アズナブル少佐がサイド7への強行偵察後の発言。

表1: .NET Frameworkの要件

OS	Windows 98/98SE/Me
	Windows NT4.0/2000/XP、Windows Server 2003
ソフトウェア	Internet Explorer 5.01以降 (推奨は6.0)
	MDAC 2.6以降 (推奨は2.7)
	Windows Installer 2.0 (.NET Framework再配布可能ファイルでセットアップされます)

ます。本稿では、ノータッチデプロイメントでは“できないこと”を述べ、日本ユニシスにおける選択の指針を示します。ノータッチデプロイメントを採用すべきか否かを判断する材料としてください。

必要な インフラストラクチャ

ノータッチデプロイメントは.NET Frameworkの機能です。よって、.NET Frameworkがセットアップされていないとまったく動作しません。

.NET Frameworkの要件を表1に載せます。この要件を満たすことができない場合、たとえばクライアントにWindows 95とかMacなどがある場合は、ノータッチデプロイメントを使用することはできません。

セキュリティのための制限

ノータッチデプロイメントでは、セキュリティのための制限が最も大きな障害となります。

ゾーンごとの許可セットは、「.NET Configuration 1.1」で確認できます。.NET Configuration 1.1を起動するには、コントロールパネルの「管理ツール」を開き、「Microsoft .NET Framework 1.1構成」アイコンをダブルクリックしてください。

さて、.NET Configuration 1.1で確認してみると……。アイタタタ。インターネットでは、できることが非常に限ら

図1：アクセス許可セットの確認
インターネットゾーンの許可セット

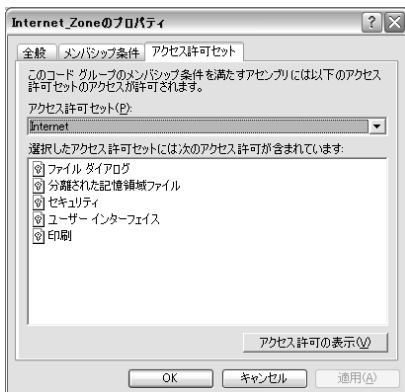


図2：インターネットのアクセス許可の詳細



れています (図1)。イントラネットのほうは、普通のアプリケーションが必要とする範囲なら大丈夫そうですけど。

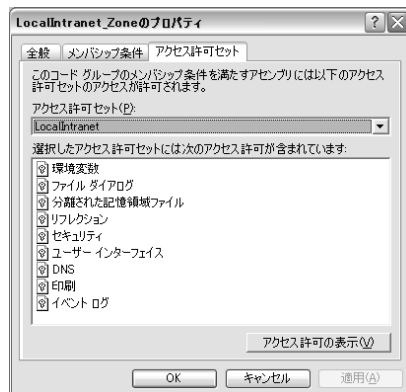
以下、インターネットの場合とイントラネットの場合を細かく見てゆきましょう。

インターネットゾーンの許可セット

できないことだらけです。「ファイルIO」はもちろん、「リフレクション」も「イベントログ」もダメ (図1を参照してください)。

許可セットに入っているものに関して、実は細かな制限がかけられています (図2)。「ファイルダイアログ」は“開

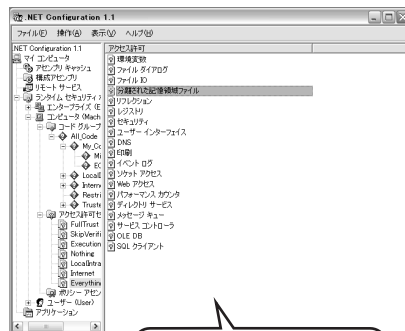
イントラネットゾーンの許可セット



く」のみですし、「ユーザーインターフェイス」は“安全なトップレベルウィンドウ”と“自身のクリップボード”しか許可されていません。「印刷」も嘘っぱち。“安全な印刷”機能は実際には動きませんから、印刷なんてできないのです。

図1の許可セットに載っていないにも関わらずできることとしては、ダウンロード元サイトとの通信があります。これは、Internet_Zoneの子どもの「Internet_Same_Site_Access」により (図3)。

さて、これらの制限の中で特に問題となるのは、“安全なトップレベルウィンドウ”しか許可されていない点だと考えます。これがどういうものなのか、具体的に見てみましょう。



普通に起動した場合は、
これだけの許可を持っている

